

サッカーのシステムと戦術の展望

Vision of the system and the strategy in soccer

1K06A126

指導教員 主査 葛西順一先生

志村 太吾

副査 広瀬統一先生

【序章 緒言】

本論では、サッカーの歴史、システムや戦術の変遷、そして各国とサッカーの文化的背景を、文献を基に研究する。そして、システムや戦術と、各国のサッカー文化との関係などから、サッカーのシステム、戦術がどの方向に向かい、また、次にどのようなリーグが覇権を取るのかといったことを検討していく。

【第1章 サッカーの起源、ワールドカップの歴史、システム・戦術の変遷】

人類史上最古の球技は、行われた場所に2つの説がある。古代エジプトという説と古代メキシコで行われたという説である。古代ギリシャ、ローマ帝国時代でも球技は存在した。古代ギリシャがエピスキロス、ローマ帝国時代のものがハルパストゥムと呼ばれていた。19世紀初頭に、ルールを統一するため、1863年にイングランドのフットボール協会、フットボール・アソシエーション(FA)が創立した。FIFAワールドカップはサッカーの世界1の国を決める大会として4年に1度開催されており、国同士の大会として、世界中のプレーヤーが出場を夢見る、特別な存在である。

システムでは、現在4-2-3-1や4-3-3といったものが流行している。これは、攻撃的にサッカーをするためである。そして、サイドで数的有利を作りやすくするために、多くのチームで採用されているということであった。戦術では、トータルフットボールの考え方、プレッシングサッカーの考え方が、現在サッカーに

おけるチーム戦術の考え方の多くであることが分かった。

【第2章 各国、地域のサッカー文化】

各国のサッカー文化では、長い間にその国民性の中にある考え方がサッカーに色濃く反映されている国々が多いことが分かった。それらは、伝統があり、サッカー強豪国であることが多い。また、アジアなどは独自のスタイルが一応あるが、更に時間をかけて確立していくことが必要な国があることが分かった。

【第3章 分析・考察】

現在主流となっている4-4-2、4-2-3-1や4-3-3というシステムは攻撃的である。このシステムでのポイントはサイドでの数的有利を生み出せるところにあると考えられる。サイドでの攻防での主導権を握る、素早いプレスを行う、こういったことが、試合で重要であることから、どんなゲームにおいても、局面ごとに、数的優位を作ることが重要であり、肝要であるものと著者は考えた。特に現在はサイドで数的優位を作れば攻撃がスムーズに行えるものと一般的に理解されている。つまり、個人が数的優位を作るためにどう動けばいいかを判断できることが重要であるものだと、結論づけた。

【第4章 まとめ】

結論として、著者は、システムは今後更に攻撃的なものになり、4-2-4といった古いシステムにまで変化する可能性があるとした。ま

た、戦術では、現在のサッカーでは常に数的優位を作ることが求められるので、それを実行するためには、個人戦術が高いことが必要であると結論づけた。フリーランニングをする判断力、今何をすべきか、という判断力、その力が高いことが必要である。スペインのリーガ・エスパニョーラとイングランドのプレミアリーグが今後も世界をリードしていくと結論づけた。2つの国には、現在のハードワークなサッカーと、攻撃サッカーをできる考え方があると判断したからである。